2023 年 3 月期決算説明会 質疑応答要旨

【業績　実績・予想】

Q:　部材・エネルギー費などの価格変動対応について 23/3 期実績と 24/3 期の計画を教えてほしい。

A:　23/3 期は価格変動が約 1,750 億円に対し、1,500 億円強と 9 割回収。来期は費用変動が 1,200 億円弱の予測に対し、100 パーセント回収する計画となっている。

Q:　24/3 期計画における車両台数やリスクの織り込みの考え方、オポチュニティーについて説明してほしい。

A:　台数は OEM ごとに前提を決めたわけではなく、車両生産の計画比 1 割減の可能性を想定し、マクロで織込んだ。足元での中国減産リスクへの警戒もある。オポチュニティーは、半導体供給において、7 月以降半導体メーカーの供給改善に加え、代替品の流動などで供給が安定することにより、車両生産がそこまで減らず、また為替も足元水準が継続すれば上振れ余地は十分にある。

Q:　24/3 期における構造改革計画等について聞きたい。

A:　北米は、経営は安定してきたが、依然として利益率は低く労務費など課題は残る。生産をメキシコ・カナダに移す、テネシーを電動化と ADAS の本拠地として体制をリーンに整え、次世代の高付加価値製品主体のポートフォリオに変えていく。欧州は構造改革によって、財務体質がよくなってきた。今年度は電動化製品を新規に立ち上げる。

グローバルでは、固定費のガバナンス強化に取り組む。昨年、固定費率が少し高かったため、今年は戻したい。また、米国港湾ストが落ち着いてきたことから、北米の積み上げ在庫を低減する。

【電動化】

Q:　今後の電動化の見通しを聞きたい。

A:　25 年インバータ生産 1,200 万台という事業目標に向けて拡販を続けていく。3 月公表のレクサス向け SiC インバータに続き、次期型 BEV 用小型タイプも開発を進めている。インバータの拡販と共に、電駆動や電源系、熱マネジメントとセットでも付加価値製品を提案し、トップラインの成長は期待できる。ADAS などの付加価値製品も加わり、トップラインの成長は期待できる。新しい EV プラットフォームにおいても、これまでの各事業で培ったノウハウを活かしていく。

【体制変更】

Q:　経営体制変更についてコメントしてほしい。

A:　経営役員の林はソフトエンジニアで ADAS を引っ張ってきた。ADAS 等の領域においては、ソフト開発の重要性がより一層高まってくる。ソフトリッチで課金するビジネスモデルづくりや、OTA、また OEM を跨ぐ電子プラットフォームづくりの推進等において、新社長となる林は適任であり、会社の意思が込められている。

以上